

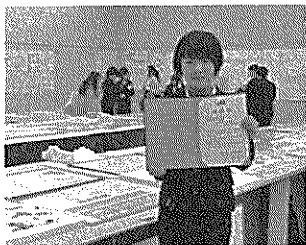
社会問題の解決 ユニークな発想で

犬と人がめぐり逢う場に 高校部門の北村さん

～第28回長野県学生卒業設計コンクール～



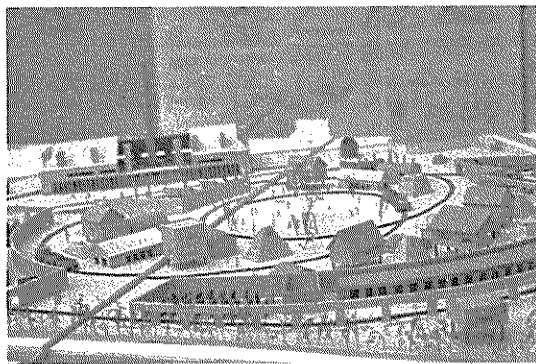
北村さんの作品「共存～命を繋ぐ場～」



高校部門金賞の北村美結さん



専門学校部門金賞の柳沢杏果さんの作品「よあけ」



大学部門金賞と市民賞の秋山由季さんの作品「レンガ巡るまち 日本煉瓦製造跡地活用計画」

日本建築家協会(JIA)

が出会う場所だ。

長野県クラブは2月17日、松本市美術館で第28回長野県学生卒業設計コンクールを開催した。県内で建築を学ぶ学生の卒業設計作品をギャラリーに展示し、設計コンセプトや図面、模型、パネルの表現力・構成員などを公開審査するもの。今年度は6校から計57作品が寄せられた。

高校部門で金賞に輝いたのは、長野工業高校・北村美結さんの「共存～命を繋ぐ場」。自然との融合をテーマに、動物と人が共存する場を提案した。

シンプルながら高さと形状が違う矩形の建物は、多様な動物たちがすまう場所。それらがランダムに連なり合っただけの大きなボリュームを形成し、隙間からさまざまな木々が顔を出す。さながら広場のようになった屋上階が、人が行き交い憩う場所、そして建物の「住民」たる動物と人と

トに表現しているの

が逆だ。北村さんによると、計画の背景にはペットの殺処分問題がある。「建物はあくまで動物のもの。ただし単なる住処ではなく、屋上階を人間の広場とすることで、いろいろな動物と人とのめぐり逢い、パートナーシップが生まれるよう構想した」

審査委員の藤沼傑さん(JIA関東甲信越支部支部長)は「ペットの社会問題にユニークな発想で新たな答えを考えていておもしろい」と評価。審査委員長を務めた建築家の原田真宏さんも「人と犬が楽しそうに歩きまわる風景が目につく。かたちと施設が合っている」と賛辞をおくった。

思いをストレートに表現

高校部門には34作品が寄せられたが、全体を講評した原田さんは「自分が大事にしているものをストレート

に表現しているのがい。欠けている部分が逆に長所となっている」と発言。審査委員の大橋秀三さん(JIA新潟地域会)は「作品がよくてもプレゼンで損をしている面があるので、話し方の表現にも目を向けてほしい」と激励し、長野県クラブ代表の荒井洋さんは「コンセプトをきちんと出していて全体の印象がいい。いまは自らの思いで突き進んでいくことが重要」と語った。

専門学校部門では上田情報ビジネス専門学校・柳沢杏果さんの「よあけ」が、

大学部門では信州大学・秋山由季さんの「レンガ巡るまち 日本煉瓦製造跡地活用計画」が、それぞれ金賞を受賞した。審査結果は次のとおり(敬称略)。

【高校部門】
▽金賞 共存～命を繋ぐ場(北村美結・長野工業高校)

【大学部門】
▽金賞 市民賞 レンガ巡るまち 日本煉瓦製造跡地活用計画(秋山由季・信州大学)

▽銀賞 電農都市 郊外におけるエネルギー循環型農村の設計提案(水木直人・同)

▽銅賞 ウラヤマ路地ツク 斜面住宅地の減築と再編(伊藤一生・同)

▽奨励賞 溶けあう建築 自然光と湧水を生かした地域のための高齢者施設(糸井梓・同)、辿るかけら 断片による里沼の再生(上田春彦・同)

▽銀賞 子どもの言葉 自然で包むことも心(岩淵蓮也・池田工業高校)

▽銅賞 職人の町(玉城稔葉・長野工業高校)

▽奨励賞 飯田駅裏デザイン プロジェクト 人の集まり方を創造して(近藤直、妹尾大輝、寺田悠希、原龍之介、矢澤篤・飯田OIDE長姫高校)、Nakagawa☆Milkway(中川ショッピングセンター)再開発計画(宮崎星来・同)

【専門学校部門】
▽金賞 よあけ(柳沢杏果・上田情報ビジネス専門学校)

▽銀賞 森の詩(保科百花・同)、Barc(和田佳菜恵・同)
▽奨励賞 マーキュル・オフィス(西澤崇人・同)